



緑の架け橋

会報第 11 号

2007年12月25日

第 6 回センター総会を開催 (2007年11月14日)

平羅県プロジェクトが無事完了！！

銀川、石嘴山での新規プロジェクト始動で 中衛市と合わせて3ヶ所の植林活動に！

～第 8 回植林緑化派遣団 (2007年9月) 報告も行われる～



プロジェクト終了となる平羅県の緑の中を調査、確認しながら進む派遣団参加者達 2007/9/22

「緑の大地へ」更なる前進

緑の架け橋推進センターは、2007年11月14日、第6回総会を開催。9月に実施した第8回植林緑化派遣団の報告を含めた5年次目の取り組み経過を全体で確認するとともに、新年度の活動計画・予算を決定しました。本事業は、日中緑化交流基金が助成、IFCC国際友好文化センターが事業主催となり中国側「中華全国青年連合会」をカウンターパートに進めているもので、緑の架け橋推進センターが事業推進母体として進めているもの。

06年度は、2007年4月の第7回植林緑化派遣団が、最終年度となる「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」と、2年次目となる「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」の植林作業を行い、9月の第8回植林緑化派遣団では、平羅県及び中衛市での補植・剪定作業と、当センター最初のプロジェクト地「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」の現在の保育管理状況を視察してきました。

今号では、第8回植林緑化派遣団報告とあわせて第6回総会での決定事項をお知らせします。引き続き、次年度の活動にも積極的な参加とご協力をお願いします。



緑の架け橋推進センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405 TEL. 03-3268-4387 FAX. 03-3268-6079
口座：中央労働金庫市ヶ谷支店 (普)0858119 郵便：00130-9-425994

中国植林緑化活動協力事業

※本会報は事業主催 (IFCC) の植林プロジェクト特集となります。

【活動実績】

プロジェクト名	事業実施期間	植林面積	遂行状況
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト	2002年度～2004年度	330ヘクタール	完了
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業	2004年度～2006年度	290ヘクタール	完了
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト	2005年度～2007年度	300ヘクタール	2年目200ヘクタール終了
日中青年銀川生態緑化林事業	2007年度～2009年度	180ヘクタール	1年目準備中
日中青年石嘴山生態緑化林事業	2007年度～2009年度	250ヘクタール	1年目準備中

緑の架け橋推進センター第6回総会を開催

新規プロジェクト始動と植林派遣団など活動計画決定

緑の架け橋推進センターは、11月14日に東京において第6回総会を開催。06年度の活動経過・決算を確認すると共に、新年度の活動にあたり「07年度活動計画」及び「07年度予算」を決定、次期役員体制を確認しました。

【活動経過】

植林緑化派遣団については、第7回派遣団(12人)は2007年4月13日～17日の日程で中衛市及び平羅県での植林作業を、第8回派遣団(8人)は2007年9月20日～25日の日程で補植作業を行いました。この第8回派遣団は、「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」の1期目の植林を機に開始された『緑の架け橋友の会』の記念訪問団となりました。

平羅県での「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」は、2007年11月に実績報告書を提出し、3年計画の事業が終了。そして、当センターの取り組みが寧夏回族自治区人民政府やカウンターパートである中華全国青年連合会から高く評価され、更に2件の新規プロジェクトが開始されることになりました。2007年度より3年計画にて、銀川での「日中青年銀川生態緑化林事業」と石嘴山での「日中青年石嘴山生態緑化林事業」が進められます。

2005年から開始された「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」は、2007年度が最終年度、3期目の植林(100ヘクタール)が予定されています。

この他、緑の架け橋推進センターとして拡大事務局会議、会報発行(第9号・第10号)等の活動を行ってきました。

【2006年度収支報告】(予算06年11月11日～07年11月10日、実績06年11月11日～07年11月13日)

収 入				支 出			
費目	予算(円)	実績(円)	摘要	費目	予算(円)	実績(円)	摘要
繰越金	56,040	56,040		事務所間借代	240,000	240,000	
会費	1,200,000	420,000	140口	通信・送料	140,000	138,200	
植林協力金	400,000	200,000	7回12口、8回8口	事務局費	500,000	316,747	
賛助金	800,000	800,000		事業費	150,000	27,600	
助成金	1,071,000	442,136		印刷代	300,000	266,274	
会場費	300,000	132,000	総会、壮行会	備品・消耗品	10,000	0	
借入金	1,280,000	63,142		プロジェクト記録	2,001,000	800,000	一部未払い
雑収入	8,960	34,491	団費繰り入れ	返済金	250,000	0	
合計	5,116,000	2,147,809		未払金	1,524,408	356,408	
				予備費	592	2,580	手数料
				合計	5,116,000	2,147,809	

【2006年度貸借表】単位・円

貸 方				借 方		借方の説明	
通帳	0	郵便振替	0	預り金	250,000	立ち上げ資金	
現金	0	助成金	519,000	プロジェクト記録	1,201,000	平羅県 579,000、中衛市 622,000	
			519,000円	未払い金	0		
				借入金	63,142		
							1,514,142円

貸方-借方=△995,142円

【2007年度活動計画】

I. 植林緑化派遣団の実施

第9回 2008年3月28日(金)～4月2日(水) 参加目標・最少20人
 日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト 第3期植林
 日中青年石嘴山生態緑化林事業 開工式
 日中青年銀川生態緑化林事業 開工式

第10回 2008年10月中旬予定 参加目標・最少20人
 中衛、石嘴山、銀川における補植活動

※協力団体(労組)ごとに最低参加目標人数を設定して個別に相談していく。
 ※参加目標数については年度トータルで40人の達成をめざす。
 ※中国に訪問する団体のプログラムに寧夏での植林ボランティアを組み込んでもらうよう要請していく。

II. 会報の発行

会報第11号・・・総会報告及び第8回植林緑化派遣団報告（平羅県・中衛市の補植活動、紅寺堡の保育状況）。
会報第12号・・・第9回植林緑化派遣団報告（中衛市での第3期植林、石嘴山及び銀川での開工式）。

III. 会員登録の推進

会員登録の目標として、60万円（3,000円×200口）の会費収入をめざして、個別の要請を行う。

IV. 植林協力金の要請

植林活動参加者1人の植林協力金を10,000円（植樹100本分）とし、年度の参加者数分（40万円）を目標とする。また、植林活動には参加できないが趣旨に賛同していただける個人・団体にも協力金を要請する。

V. 「緑の架け橋友の会」の積み立て

「緑の架け橋友の会」積み立ては、派遣団の基礎となるようセンター活動とともに継続していく。

【2007年度予算案】07年11月14日～08年11月13日

収 入			支 出		
費目	予算(円)	摘要	費目	予算(円)	摘要
繰越金	0		事務所間借代	240,000	
会 費	600,000	200口	通信・送料	140,000	
植林協力金	400,000	40人	事務局費	400,000	総会、壮行会等
賛助金	1,200,000		事業費	100,000	
助成金	1,083,000	平羅県、中衛市、石嘴山、銀川事務経費	印刷代	300,000	会報作成（2回）
会場費	200,000	総会、壮行会	備品・消耗品	50,000	
借入金	2,433,000	IFCCより	プロジェクト費	3,216,000	プロジェクト会計へ
雑収入	0		返済金	313,142	
合 計	5,916,000		未払金	1,201,000	
			予備費	858	
			合 計	5,916,000	

【2007年度 プロジェクトの事業計画】

区分	日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業		日中青年石嘴山生態緑化林事業		日中青年銀川生態緑化林事業		摘 要
	事業経費(千円)	内容	事業経費(千円)	内容	事業経費(千円)	内容	
植林	13,040	338300本(100ha)	6,022	84,000本(50ha)	11,029	133,000本(45ha)	苗木購入、植え付けなど
保育	2,280	灌水・農薬散布・施肥等	900	除草・施肥・農薬散布等	1,772	除草・施肥・農薬散布等	灌水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	1,520	農薬散布機、ホエ、肥料等	884	消火器、肥料等	672	消火器、肥料等	造林用作業具、農薬散布機等
基盤整備	2,736	灌漑設備等	2,173	灌漑設備等	2,064	灌漑設備等	灌漑水路整備
事務経費	960	通信・印刷等	960	通信・印刷等	960	通信・印刷等	
技術者派遣	700	派遣旅費等	700	派遣旅費等	700	派遣旅費等	
その他	800	技術指導等	3,865	技術指導等	320	測量計画設計費	助成経費以外の経費
合計	22,036(内、助成19,700)		15,504(内、助成9,900)		17,517(内、助成9,800)		

【2007年度の役員体制】敬称略・順不同

会 長	佐藤晴男（前・総評会館理事長）
副会長	福田精一（全農林労働組合委員長）、佐藤幸雄（全水道労働組合委員長）、豊島栄三郎（政労連委員長）、加藤孝二（自治労副委員長）
技術相談役	丸山建蔵（総評会館理事長）、足立則安（全水道共済理事長）、阿部保吉（退職者連合事務局長）、君島一宇（自治労共済理事長）
常任委員	森下和哉、岡崎徹、井上久美枝、高端照和、西山啓二、西岡裕、巾崎光雄、鎌田篤則、宮秋道男、田中毅、森信夫、石川昇、筒井直樹、近藤和樹
会計監査	小林照明
顧 問	村山富市、重野安正、又市征治、菅野哲雄、金子哲夫、東門美津子、山本喜代宏
事務局長	石川昇
事務局次長	高端照和、田中毅、山内幸一郎、鎌田篤則



第8回派遣団参加者

第8回植林緑化派遣団（2007年9月20日～25日）活動報告 報告:川上満

第8回派遣団は、総勢8名が参加。寧夏回族自治区の省都・銀川市を拠点に、中衛市、平羅県、紅寺堡開発区におけるこれまでのプロジェクトの進捗状況を視察することを目的とし、中衛市（プロジェクト2年目）と平羅県（3年目/最終年）での秋季補植作業と、終了している「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」のその後の保育状況チェック、平羅県プロジェクト開始を機に作られた「友の会」の記念訪問を兼ねた派遣団となりました。

9月19日(水) 結団式・壮行会

出発前日、都内で結団式・学習会並びに壮行懇親会が開催された。結団式で佐藤晴男団長を含む少数精鋭(?)8人のメンバーが、プロジェクトの経過と概要をDVD及び資料に基づき学習。壮行懇親会では、社会民主党・菅野哲雄、日森文尋、重野安正衆議院議員から、「政局の動向と日中関係を踏まえ、調査団の所期の目的を達成し、無事帰国されるように」との期待を込めた激励の挨拶をいただいた。

9月20日(木) 成田出発、北京経由で西安へ

午前09:10成田空港発、北京空港を經由して午後16:20に西安空港へ到着。

9月21日(金) 西安の自然・文化遺跡の視察見学と銀川への移動

西安市郊外の華清池、兵馬俑坑博物館、秦始皇陵などの自然・文化遺跡などを視察見学した後、西安空港から銀川空港へ移動。銀川着が深夜にも関わらず、市当局及び中青連関係者に空港で迎えていただいた。

9月22日(土) 平羅県での補植作業

午前、2004~07年で終了した平羅県におけるプロジェクト地を視察。管理小屋において生育状況等についての説明を受けた後、植林現場を視察した。病虫害予防、灌漑渠の設置と管理、除草など市と区の協力を得て植林団が植えた棗、ポプラ、アカシア、柳の4種類の管理を行っている。3年目にして効果が現れている証拠は、鴨や野鳥の飛来が数多く見られるようになったことに証明されている、との説明があった。棗の木は大きいものでは5mほどの高さに成長し、小さな実がなっているのが確認された。また、現場では、約10名程度の地域の人々が草刈り作業を行っており、刈りとった草は羊などの餌になるとのこと。2ヶ所目の植林現場では、近辺の中学生約100人と共に補植作業を行った。石嘴山市における昼食交流会には、石嘴山市政治協商委員会・王劍義副主席、平羅県・謝海燕副県長、寧夏回族自治区青年連合会・曹剛主席、石嘴山市青年連合会・揚帆主席、石嘴山市青年連合会・張志国秘書長等が参加し、意見交換と交流。佐藤晴男団長が、「緑が多く育っている事に、派遣団の成果を見ることができる。プロジェクトの成功を確認すると同時に、一層の交流を続けていきたい。」と挨拶。続いて、石嘴山市・王副主席が「緑の架け橋推進センターに感謝する。地元で管理をしっかりと行い緑をさらに増やしていきたい。」との決意が述べられた。午後は、赴沙湖や西夏王陵の自然や歴史文化財を視察した。



9月23日(日) 中衛市での補植作業と、紅寺堡状況調査

バスによる往復の移動距離が450kmというハードな1日。午前中、中衛市の第1期プロジェクトの生育状況を視察。地元中学生15名と共にポプラ、アカシアの剪定作業を行った。その後移動して棗、ポプラ、アカシア、柳の生育状況について視察。地元中学生50名とともに下刈り作業を行う予定であったが、苗が小さく見分けがつきにくい状況を考慮して作業は中止。中衛市における昼食交流会には、中衛市党常任委員会・エン祖強副市長、全国青年国際項目合作中心・洪桂梅部長、中衛市青年団・陳宏副書記、孫尚金さん等が参加し、意見交換と交流。午後、沙波頭及びトングリ砂漠と黄河を見ながら、最初の緑化活動を行った紅寺堡生態緑化プロジェクト地を視察。紅寺堡は町の近くで高速道路の建設が進んでおり、また、町の中は高層住宅などが建設され、地形が変わるほどの変容をとげており、第1期プロジェクトの地は、ここ2年連続の大旱魃のために地元の人々の手で補植が行われ、管理がされていた。紅寺堡開発区宴清(夕食交流会)には、地区開発責任者・馬昭さん、寧夏回族自治区青年委員連合会主席・馬さん、地区青年委員会・王さんなどが参加して意見交換と交流。佐藤団長が「紅寺堡のプロジェクトは日中友好の象徴である。町の発展と緑化が進むことによって砂漠化の防止と、住民生活の向上を祈念する。」と挨拶。中青連を代表して曹剛さんより、「中日政府が進める「母なる川を守るプロジェクト」を緑の架け橋センターともにまじめに取り組み、人間としても成長してきた」「プロジェクトは点から線に、線から面に着実に広がっている」「科学的な農業や植林について地元住民は不慣れであったが、最近では克服されつつある。生態系は必ず変わる、変えるという確信のもとに中青連は頑張るので、安心して下さい」との挨拶があった。



9月24日(月) 銀川より北京へ

午前、銀川空港から北京空港へ移動。万里の長城「八達嶺」の視察見学を行った後、夕方には解団式を行った。佐藤団長から、①全員健康で所期の目的が達成できた、②一部の植林先の体制に問題があり、不十分なところも見受けられたが、全体的には成功していると判断する、③我々のプロジェクトが気候や環境的には一番厳しいところで行っていると思うが、ここまでの成功を誇りとしたい、④団員の帰国後の活躍と今後も各地からの一層の協力をお願いする、と総括。

9月25日(火) 帰国 午前、北京空港から中部国際空港、関西国際空港、成田空港へと三つのルートで無事帰国。

第8回植林緑化派遣団参加者(8名)

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
佐藤 晴男	当センター会長	高倉 誠二	自治労・大分	半田 力也	全農林
石川 昇	林退協事務局長	佐伯 久	自治労・大分	鎌田 篤則	IFCC
竹村 善和	自治労・長野	川上 満	自治労・沖縄		